

11月20日 早天祈祷会

担当: 平松

聖書のことは：信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。（ローマ人への手紙 10:17）

おはようございます。今日のメッセージでは、まず近況報告をします。そのあと、2週間前に行ってきた聖書を勉強するキャンプについてお話します。最後にちょっとだけ、ホワイトボードに書いた本『プロテスタンティズムと資本主義の精神』の内容をお話します。

近況報告から始めます。マンドリンの演奏会が今週末に駒場祭であります。昨日集会に行ったあと、久しぶりに練習に行きました。楽しかったです。今年度でマンドリンのサークルは3年目ですが、小学校のときもマンドリンを2年ちょっとやっていたので、マンドリンとは少し長い付き合いになります。少しだけユニークな僕の特技だったと思います。スポーツや研究のことを長く考えていると、競争に勝つことだけを重要視してしまうように僕はなりがちですが、まったく違った種類の経験を積ませてもらったことは感謝しています。友達と一緒に弾くアンサンブルは本当に楽しかったです。でも、今年12月にある定期演奏会が終わったら一区切りつけて卒業したいと思っています。「一芸は身を助けるときもあれば、身を滅ぼすときもある。」と『葉隠』という昔の本に書いてありますが、意志のあまり強くない僕にとってはそうかもしれないなと思います。定期演奏会まであとすこし、後悔しないように練習したいと思いました。終わったあと必ず後悔はしてしまうでしょうけど。マンドリンに関してはサークルを卒業したあとまたお話します。

次にキャンプについてお話します。少し前、11/4(土)と11/5(日)には長野県であったキリスト集会のキャンプに行きました。集会のキャンプには8年ぶりくらいに行きました。両親が来ることが分かっていたので、彼らと会って話して様子が知りたかったというのがわざわざ長野県まで行った理由です。そこで思いがけずたくさんの方々と交流することができました。いくつか聖書で分からなかったことも理解できました。印象に残った方とお話は日記につけておいたので皆さんにも共有します(6人)：

[僕が名前を忘れてしまったお兄さん1]

東大OB。僕が中学生の時行った集会のキャンプで、深夜に長いあいだ話した記憶がある。適度に僕をおだてつつ、僕の持っていた素朴な疑問に向き合ってくれた。本当にありがたいことだったと思う。それ以降も何度か集会で顔を合わせたような気もするけど、今回のキャンプでまた再会した。話した内容は忘れたけど出来事は僕にとってすごく印象に残っていたし、彼もはっきりと覚えていたらしい。

[W田さん]

30代後半くらいの若々しい方で、10年くらい外国で駐在員として働いていて最近帰ってきたらしい。自分の信仰の告白(証し)がまとめてある冊子を、僕宛にメッセージ付きで郵送してくれた。昨日も集会に行ったら会えたので、冊子を送ってくれたお礼を言った。

[N中さん]

地元の富山集会に集っているかた。小学生のころの僕を知っている。朝ご飯と一緒に食べた。いのちのことは社で昔働いていたことがあるらしい。大学院で法学を勉強されていた。僕が義務とは何か聞いたら、義務と権利は表裏一体であると即答された。なぜ疑問に思ったかという、この寮に入るときに僕が書いた誓約書で義務について約束してしまったから。僕は

サインしたとき実は、「誓約と義務か、得体が知れないな」と思っていた。話を聞く前、僕は義務を義理(*1)と同じ意味で考えていたが、話を聞いて理解が少し進んだ。義務というのは権利を受けるために果たすもので、ただ果たすことがまわりに期待されているだけの義理とは異なる、と言うのが今の僕の理解。つまり義理に権利はついてこないけど、義務に権利はついて来るでしょ、程度の理解。法律を勉強している他の方の意見も聞いてみたいと思った。僕からは光の物理に関して話した。

そのほかにも何人かの方々のお話を聞きました。

[H 田さん]

KGK の元顧問で、元教授。土曜午後に行われた結婚式の司会(神様の前で夫婦の誓いを取り付ける仕事も含む)をやっていた。結婚式の夕食の時に席が隣になった。僕の疑問として、「結婚式で新しい夫婦が約束をするがそれは誰に対して約束するのか」と聞いた。「クリスチャンは神に対して誓いを立ててはいけないから、神の前で神の力を借りて将来の伴侶に対して誓うんだ」と明解な答えが帰ってきた。僕の質問は初歩的だったろうけど、知れて良かった。近くに座っていた母親と僕は H 田さんが書いた本を読んだことがあったので、その本のなかに引用されていたマタイ 20:1-14 の不思議な出来事についても 3 人で話した。その話は簡単に言うと、神の労働者への賃金の分配は、働いた時間にも能力とも関係がなく平等になされたという話。見方によっては公平ではないと言うのが母親の印象に残ったらしい。

[F 本さん]

元(光)半導体エンジニアの方でシリコンバレーに 6 年くらいいたらしい。僕も光技術は学生の間、テーマの一つにしたいと思っている。起業して(会社を何個かつぶしたあと)、今は(レンズ製造に関する工業用)センサを作る会社とパン屋の社長さん。「クリスチャンになることで成功を逃してほしくない」と言った言葉が印象的だった。

[名前を忘れてしまったお兄さん 2]

キャンプで日曜のお昼を食べたときに内村鑑三の『後世への最大遺物』の話をした。僕が内村鑑三の『私はいかにしてキリスト教徒になったか』の中で書かれている考えにじっくり来て、納得できたと言ったから。お兄さんとは昨日の集会でも会った。『後世への最大遺物』は、若い学生向けの内村の講演を書き起こしたもの。内村はこう言った。人が一生で残せるもの(のうち価値のあるもの)は四つある。一つ目は財産だ。お金を正しい目的で貯めて、正しく使うなら社会に大きく貢献できる。二つ目は事業だ。社会に大きな遺産を残すことができる。三つ目は思想だ。時代を越えて人々に影響を与えることができる。だけれども最大の遺物(四つ目)、もっとも価値のあるものは、その人の生涯である。後世の人々に勇気を与えることができる。

少し長くて、とりとめのない話になってしまいましたが、長野のキャンプでは何人ものかたとお会いして、話が聞けました。話を聞いて、それを日記にまとめて、さらに日記の一部をこの原稿に書き換えることで、彼らが何を言ったか僕のなかでずいぶん整理できてきたように思います。それで、キリスト教への疑問が一部解消されました。

最後に両親が話してくれたこと、メールで教えてくれた言葉で、印象に残った言葉も話たいと思います。僕の母親に僕が、集会に行っても何を言っているのか分からないし自分で本と聖書を読んで勉強するよと、言ったことがあります。そのとき母親はローマ人への手紙 10:17 の「信仰は聞くことから始まる」を引用して、集会に出て黙って座って聞いていることによっ

で得られる学びもあるよと言いました。これは僕がキリスト教の勉強をする上で、従っている言葉のうち一つです。父親は長野のキャンプから帰ってきた後、僕にメールをくれました。本文には「信仰を持つためにはまずはできれば聖書の本文を読んで欲しい。僕は2回読んだ。黒船で有名なペリーは黒船で日本に来る途中に2~3回読んだそうだ。」と書かれていました。そのほか父親に、聖書の特定の章と三浦綾子の本をおすすめされました。

（このあと簡単にマックス・ウェーバーの本『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を紹介する。）

僕の話は以上です。

それでは皆さん、楽しい一週間をお過ごしください。

(*1)新渡戸稲造は『武士道』のなかで義理という言葉について以下のように述べている。

「義理という文字は、正義の道理という意味であるが、時をふるにし従い、世論が履行を期待する漠然たる義務の感を意味するようになったのである。」